

令和5年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立朝陽中学校	校長名	川原田 元
児童・生徒数	528 名	学級数	21 学級
		教職員数	62 名

1 めざす学校像

学校教育目標「仲間とともに学び合い、主体的に生きる生徒の育成」

・聴き合い学び合う学校・互いに認め合う学校・感性を高め合う学校

2 現状と課題

生徒は授業に意欲的に臨み、部活動や生徒会活動にも積極的に取り組んでいる。互いに学び合う関係を大切にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めている。全国学力・学習状況調査の結果を見ると、平均正答率は全国や県の平均に比べ同程度かそれ以上ある。また、「友達と協力するのは楽しい」と回答する生徒の割合が高く、授業や学校行事等で仲間とともに取り組むことに喜びを感じている生徒が多い。しかし、SNS等に費やす時間が長かったり、家庭学習の時間が短かったりするなど、家庭での過ごし方を改善しなければならない生徒が少なくない。

生徒指導面では、全体的に落ち着いてはいるものの、SNSに起因したネットトラブルが増加しており対応に追われている。また、様々な生活背景に悩む生徒、学校に行きにくい生徒も多く、個々の状況に応じた対応とそれができる教員の資質向上が必要である。

教職員は、多忙な業務に追われながらも総勤務時間縮減を意識しつつ、生徒への細やかな指導や教材研究、部活動指導等に意欲的に取り組んでいる。

3 重点目標

- (1) 一人一人の自立に向けた学習指導の充実。
- (2) 他者とのかかわりによって、確かな安心感と豊かな感性を育む教育の推進。
- (3) 生徒会活動やボランティア活動、部活動など自主活動の充実。
- (4) 地域・保護者とともにある学校づくりの推進。
- (5) 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化。

4 具体的な行動計画

- (1) 一人一人の自立に向けた学習指導の充実
 - ・学び合う授業を通じて主体的・対話的で深い学びを実現する（年2回以上授業公開）。
 - ・学習の基盤となる読解力と家庭学習に対する指導を強化し、自ら学ぶ力を育む。
 - ・タブレット端末等の使用が効果的な場面では積極的に活用する一方、本物に触れたり、手を動かして物を作ったりするなどアナログ的な実体験も重視しバランスを取る。
 - ・特別支援教育に対する教員の理解を深め、教育課程の充実と指導体制の強化を図る。
- (2) 他者とのかかわりによって、確かな安心感と豊かな感性を育む教育の推進
 - ・人権尊重を基盤に、学校生活のあらゆる場面で仲間づくりを進め、身近にある「いじめ」や「差別」を自分自身の課題と捉え、その解決のために行動できる生徒を育む。
 - ・日常の学校生活と学校行事を結び付けるサイクルを機能させ教育効果を高める。
- (3) 生徒会活動やボランティア活動、部活動など自主活動の充実
 - ・自治の精神を養い主体的な生徒を育てるために、校外も含め体験的活動を充実させる。
 - ・部活指導を通じて意欲や達成感を醸成し、学校生活をより豊かなものにする。
- (4) 地域・保護者とともにある学校づくりの推進
 - ・学校運営協議会を年3回、役員会を年4回開催し、委員の意見を学校運営に反映する。
 - ・「花いっぱい運動」や「道の駅かわげ」とコラボした活動を推進する。
- (5) 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化
 - ・授業改善、仲間づくり、生徒指導体制の充実の連動による問題行動の削減と早期解決。
 - ・適正な部活運営（完全複数顧問体制、部活動指針に則った休養日確保等）。
 - ・定時退校日を月2日程度設定する。
 - ・アプリを導入し、出欠席連絡対応や健康チェックの負担軽減。
 - ・職員会議や研修会等の会議時間の短縮（60分以内に終了する会議の割合80%以上）。